

木曾義仲

白鳥河原の勢揃い

長野県歌「信濃の国」の5番の歌い出しにある、「♪旭將軍義仲」と

木曾義仲公には、ここ海野宿と深い関わりがあります。

木曾義仲は武蔵国(現埼玉県)に生まれ、源氏の内部抗争

によつて幼少期に信濃国木曾谷へ逃れてきたと言われています。

木曾に本拠を置く中原兼遠の庇護下で育つた義仲は、

治承4年(一一八〇)の以仁王による平氏打倒の令旨を受け、

小県郡依田城(現上田市御獄堂)を拠点とし、白鳥河原にて挙兵。

滋野三家や信州・上州の武士など二千騎とも二千騎とも言える兵が

集結しました。この後、義仲公は横田河原の合戦、さらには

俱利伽羅合戦での勝利を収め、平家を追討し京都に入つて征夷大將軍となりました。

歴史薫る街並み「海野宿」

海野宿は、かつて江戸に向かう参勤交代の
大名行列や、善光寺詣での旅人たちで大変賑
わつた旧北国街道の宿場町です。

江戸時代・明治時代の建物がそのままに残
る通りは、重要伝統的建造物群保存地区にも
指定されており、特徴的な海野格子や、豪華な
卯建(うだつ)が各所で見られる街並みは、往
時の佇まいを感じさせます。



北国街道 重要伝統的建造物群保存地区 海野宿



巴御前

木曾義仲



白鳥神社

木曾義仲が挙兵の際に戦勝
祈願をしたと伝えられる白鳥
神社は、海野氏、真田氏の氏神
である日本武尊の伝説を縁起
とする歴史ある神社です。

真田家からの信仰は篤く、
真田幸隆は武田信虎に攻めら
れた際、白鳥明神の靈験を受
け敵陣を突破したと言われて
います。松代への移封の際分祀
されましたが、引き続き海野
宿の白鳥神社も崇敬されてい
ました。

現在も海野宿の産土神とし
て大切に祀られています。

東御に栄えた豪族

海野氏の祖

海野氏は、ここ海野宿周辺を本拠として栄えた豪族でした。平安後期、東御市に今も地名として残る「滋野」氏の滋野恒信が信濃国望月牧監となり、海野幸俊と改名して海野氏の初代当主となります。その子信濃守海野幸恒は、天延元年（九七三）に海野荘の下司となり、3代当主海野幸明の弟たちが分家してそれぞれ祢津氏・望月氏を起こしたとされています。

木曾義仲の挙兵

木曾義仲の挙兵の際、9代当主となる海野幸広は義仲公に従い、寿永2年（一一八三）備中水島の合戦で待将軍として討死しました。また幸広の弟である海野幸長（のちの大夫房覚明）は、義仲公の軍師として平氏追討の戦いに加わっています。ともに義仲公の腹心であり、義仲の都入りにあたって重要な役割を果たしていました。

義仲勢滅亡後の海野氏

海野氏は義仲勢が滅びた後も、源頼朝をはじめ北条氏・足利氏・真田氏に仕え、騎馬弓射の道に長じて重く召し抱えられていました。ここ海野宿は海野氏の本拠として、また近辺の交通上・交易上の

中心地として栄えていました。現在では上田市にも海野町という地名がありますが、これは上田城築城の際、真田氏が住民を上田に呼び寄せたため、その際に海野宿周辺を海野町の元の地、現在の地名である「本海野」と称したとされています。

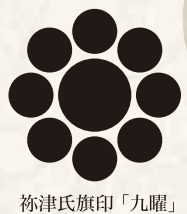
■海野氏家系図



「海野氏」

海野氏旗印

海野氏とそこから分かれた祢津氏・望月氏は、滋野三家と呼ばれ緊密な係わりを持ち、保元の乱などの際には三家一体となって敵に当たったと言われています。



真田氏の家紋として有名な「六連銭」ですが、これは木曾義仲軍の侍大将として水島合戦に挑んだ海野幸広が討ち死した際、海面に浮いた渦が銭を連ねたように見えたことから、それまでの家紋「州浜」を「六連銭」に変え旗印としたと言われています。

三途の川の渡り賃である六文を背負うことで、死を覚悟して戦うという云われの旗印「六連銭」は、海野氏が最初に使用した家紋だったのです。

「和」にある「滋野」神社の不思議

東御市は滋野・祢津・和・田中・北御牧という、大きく5つに分けられる地区から成り立っています。その中の1つ、和地区に、なぜか「滋野」という名前の神社があることをご存知でしょうか。

海野氏・祢津氏・望月氏の祖である滋野一族は、長野県小県から佐久、西上州にも勢力のあった名族でした。この滋野神社には、海野郷（海野宿）に移住し

た滋野氏（海野氏）の産土神が祀られていたと言われています。滋野三家の後楯を得ていた義仲は、この滋野神社への戦勝祈願の折に白赤の木瓜を記念に植えたと伝わっており、現在でもかわいらしい花が咲く様子を見ることが出来ます。

